



札幌の会議に夫婦で参加しました。あるクリスマスチャン精神科医が虐待されて心に傷をもった幼児を養子として育て、年月を経て優しいケアヘルパーになっていったという話を聞きました。真摯に自らの犠牲を覚悟して弱者を助けるということは、キリスト教の教えの根幹の一つです。実際にそれを営んでおられる報告は、私たちに大きな刺激となりました。

今月の12日に、千葉市市民ホールで低血糖症治療の会の公開講演会があります。どうぞご参加ください。私たち夫婦は、低血糖症及び心の病める方々の癒しに自らの人生の意義を掛けています。イエスキスは、「悲しむ者は幸いです。慰められるからです。」と言われました。現代社会で、悲しむ人を慰める人がどれだけいるでしょうか。「あわれみ深い者は幸いです。その人はあわれみを受けるからです。」

人を蹴落とし、競争に打ち勝つたとしても、慰める人や愛する人がいないならば、その人生は虚しいものとなります。歳をとらないと、慰めあうことが分らないのならば、歳をとることは喜びの門を入ることになります。老いることは引退ではありません。人間は能率を要求される機械ではありません。自らの人生を、味わうかどうか。テレビや娯楽に心を向けるよりも、隣りにいる人に声を掛け、心を通わせることができるならば、なかなかのものなのです。

秋は大好きです。じっとたたずみ、木の葉の一つ一つを眺めます。今年は、木が傷んで実りは少ないけれども、だからこそ、慈しみ深く庭の木々を大事にします。

病めることに気落ちしませんように。
苦しいことに囚われませんように。

診察待ちが長くなっていることをお許しください。感染症対策にはできるだけのことをしております。待合室を模様替えし、飲み物が飲めるようにしました。

私のブログ「[crossroad](http://crossroadchapel.blog.ocn.ne.jp/blog/)の不便」を始めました。

<http://crossroadchapel.blog.ocn.ne.jp/blog/> 柏崎久雄

* 感染症の方は廊下の入口から

インフルエンザ、風邪、おたふくかぜ、はしか等が疑われる方は、中央通路わきにあるインターフォンでご連絡ください。状況を確認して感染症患者待合室に誘導していただきます。院内感染を避けるためご協力ください。

* ビタミンC点滴療法について

ガン治療の選択肢として、体維持と治療のため、副作用の無いビタミンC点滴療法があります。

* 腸内検査と除菌治療について

詳細な検査が出来ます。お問い合わせください。

* インフルエンザ予防接種は10月から開始します。

ワクチンの数が限られているため、一般の方への接種は限られてしまうことをご理解ください。乳幼児、65歳以上の方、受験生だけは予約制で、一日合計20名の枠で接種を行います。接種価格は、チメロ有一律3150円です。チメロ無4200円の予定です。

* 低血糖症治療の会が10月12日(月・祝日)に開催

日本リアリティ・セラピー協会理事長、立正大学心理学部教授の柿谷正期先生を迎えて記念講演を企画しました。また、パネルディスカッションは、多くの低血糖症に関する書物をお書きになっている岩手大学名誉教授大沢博先生を交えて行われます。

* 聖書を読む会10月13日(火) 2時~2時20分

待合室にて行います。どなたでも参加できます。

* 親業セミナーが開催、11月8日(日)

テーマは「自分の居場所を見つけるためのコミュニケーション」です。2~3時半

《検査数値からわかる様々な疾患①》

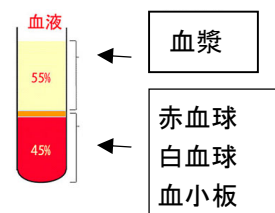
血液検査は、身体の機能が正常に働いているかを調べます。数値に異常がある場合は病気の早期発見、経過観察、診断に利用します。自分の検査結果を正しく理解する事で、健康の自主管理に役立ちます。

I. 血液成分検査

血液は体内を循環し、組織細胞間で栄養・老廃物の交換を行います。

A. 血漿

血漿は血液から有形成分（赤血球・白血球・血小板・タンパク質など）を除いた液体成分で、血液の約 55% を占めます。循環血漿量が減少する状態を脱水といいます。血漿には水分だけでなく、タンパク質、ビタミン、ミネラル、さらに血液凝固に関与する成分も含まれていますので、脱水状態では水分と共に栄養も不足します。また水分を蓄えておくためにはタンパク質が必要です。タンパク質不足の人は血漿が薄くなりやすく、一見血液が濃く見えるため、貧血が見過ごされる事があります。



B. 血球成分

1. 白血球数 (WBC)・・・基準値：3500～9700/ μ l(マイクロリットル)

a. 白血球の働き

白血球は、外から体内に侵入してくる病原菌（細菌・ウイルス）や異物、体内で発生した異物（ガン細胞、細胞の死骸、LDLコレステロールなど）を取り除き、身体を守ります。

減少してくると細菌に対する抵抗力が低下し、感染症（風邪やインフルエンザ、膀胱炎など）にかかりやすくなります。白血球の検査値は、1 ml の 1/1000 の容積である、1 μ l (マイクロリットル) の血液に含まれる数で表します。免疫力維持のためには、最低でも 3000/ μ l 欲しいです。

体内に細菌やウイルスが侵入し、発熱や咳などの炎症が起こると白血球は増加します。そのため検査では、感染症・炎症の有無、骨髄や脾臓の異常の有無、治療効果の判定を目的とします。

b. 異常値で考えられる疾患

高値 細菌感染症、外傷、熱傷、血液疾患、組織障害、その他（ストレス、喫煙、月経）

低値 ウイルス性感染症、薬剤アレルギー（抗生物質、抗甲状腺薬など）、血液疾患（再生不良性貧血、急性白血病）膠原病、肝硬変、抗がん薬投与、放射線障害など。

c. 白血球像（末梢血管像）

一般に白血球といっているのは、以下 5 種類の重要な白血球(好塩基球、好酸球、好中球、リンパ球、単球)を総称しているものです。これらにはそれぞれ異なる形態・性質があり、それぞれの占める割合が一定範囲内に保たれていますが、身体になんらかの異常が発生するとお互いの比率に変化が現れます。

①好塩基球：アレルギー反応を起こして異物から身体を守ります。

②好酸球：アレルギー、炎症などを抑えます。

③好中球：白血球の 60% を占め細菌など病原体と戦いその病原体を食べる作用があります。

④リンパ球：白血球の 20% を占め身体を病気から守る免疫の働きをします。

⑤単球：細菌や異物を飲み込んで退治し、マクロファージ※として身体を守ります。

※マクロファージ(貪食細胞)・・・侵入した異物を捕食し除去すると共に、リンパ球や好塩基球が異物を攻撃するよう、働きかける細胞。

白血球の種類		増加する疾患	減少する疾患
顆粒球	B(好塩基球)	慢性骨髄性白血病、アレルギー性疾患	
	E(好酸球)	アレルギー性疾患、寄生虫症、皮膚疾患	感染症、再生不良性貧血
	NEUTR (好中球)	急性細菌性感染症、外傷、熱傷、ストレス、中毒、梗塞性疾患、ステロイド薬服用	ウイルス感染症、急性白血病、再生不良性貧血、薬剤副作用
L(リンパ球)		ウイルス感染症、慢性リンパ性白血病、	急性感染症の初期
Mon(単球)		感染症、単球性白血病、無顆粒球症回復期	

2. 血小板・・・基準値：14.0～37.9 ×10⁴/μl(マイクロリットル)※

a. 血小板の働き

※マイクロ=10⁻⁶

血小板は、血管が傷つくとそこに、粘着・凝集を起こして血栓を作ることで出血時に血を止める働きをします。5.0×10⁴/μl 以下は止血に支障をきたし出血が続く傾向が見られます。逆に血小板数が過剰になると、血液の凝集（固まる）傾向が強くなり、血栓が作られやすくなります。

b. 異常値で考えられる疾患

高値 出血後、手術後、悪性腫瘍など。

低値 再生不良性貧血、白血病、悪性貧血など。

免疫に働く栄養素

グルタミン…リンパ球の正常な増殖や食作用に関与
 ビタミンB群…白血球の遊走に関与
 ビタミンC…活性酸素の消去
 ビタミンA・C・プロテイン…粘膜を構成する、コラーゲンの材料

3. 赤血球関連の項目

a. 赤血球の働き

赤血球は全身に酸素や栄養素を運ぶ役割を担っています。赤血球の数・状態に異常が現れると、**貧血**の症状が現れます。

項目	基準値・働き・原因・考えられる疾患
RBC (赤血球数)	<p><基準値> 男性 438～577 女性 376～516 ×10⁴/μl</p> <p>赤血球は骨髄で生産され、脾臓や肝臓で破壊されます。何らかの理由で合成と破壊のバランスが崩れると、検査結果に異常が現れます。</p> <p>低値：貧血、出血 高値：赤血球增多症、大量喫煙、ストレス、脱水</p>
Hb (ヘモグロビン・色素量)	<p><基準値> 男性 13.6～18.3 女性 11.2～15.2 g/dl</p> <p>赤血球の中にあるタン白質。酸素と結合する性質を持ち、肺から取り入れた酸素を全身へ運搬する役割を担っています。鉄を含むため、赤色を帯びます。検査値は、血液 1 dl (100ml) に何グラム含まれるか調べます。</p> <p>低値：貧血 高値：多血症</p>
Ht (ヘマトクリプト)	<p><基準値> 男性 40.4～51.9 女性 34.3～45.2 %</p> <p>一定の血液量に対し、赤血球の容積が占める割合です。RBCが正常にも関わらず、Hb, Ht が下がる場合には鉄欠乏性貧血が最も疑われます。</p> <p>高値：多血症、脳血栓の危険性がある場合、飢餓時（絶食時）、脱水</p>
MCV (平均赤血球容積)	<p><基準値> 男性 83～101 女性 80～101 fl(フェムトリットル)※</p> <p>赤血球の大きさを示します。赤血球が成長するためにはビタミンB₁₂・葉酸が必要です。ビタミンB₁₂・葉酸が不足すると成熟した赤血球の合成が困難になり、大型の赤血球（巨赤芽球）が血液中に現れます。これを巨赤芽球性貧血といい、MCVが高値を示します。</p> <p>高値：巨赤芽球性貧血、ビタミンB₁₂・葉酸欠乏、慢性胃炎、肝機能障害</p>

※ 1 fl=1/1 兆 リットル

診 療 案 内 （内科・小児科）

＜ 診 療 時 間 ＞

月曜～金曜 （午前 8 時 30 分～12 時 10 分、午後 2 時 30 分～5 時 30 分）
土曜 （午前 8 時 30 分～12 時 10 分、午後 2 時～4 時）
休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・生活保護指定機関
- ・介護保険取扱機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・自立支援医療機関
- ・身体障害者認定医
- ・小中台小学校校医
- ・各種健康診断
- ・栄養療法(分子整合医学)

網状赤血球

＜基準値＞0.1～2.6%

骨髄で作られた初期の赤血球です。骨髄で赤血球を合成している状態を推測します。赤血球が寿命（120日）より早く破壊されている場合は、若い赤血球の割合が増えるため数値が高くなります。また、スポーツ選手、飲酒量が多い場合も赤血球の寿命が短くなりやすく、数値が高くなります。

低値：材料不足（栄養欠損） 高値：鉄欠乏性貧血、溶血性貧血、出血

赤血球の材料には鉄分の他にタンパク質やビタミンB2、B6、B12、ビタミンAなどが必要であり、貧血を防ぐためにはしっかりと補う必要があります。上記の検査値に異常（主に低下）が現れると、エネルギーを作り出す細胞へ酸素の供給が滞り、エネルギー産生の効率が低下するので、倦怠感、めまい、立ちくらみ、動悸などが起こりやすくなります。貧血には何種類もあり、それぞれ原因も異なります。

次回は貧血の種類やその他の検査値について触れていきたいと思っております。



除菌治療について

原因は様々ですが、腸内細菌のバランスが崩れ、有害な腸内細菌が過剰に存在すると腸壁が痛みやすくなり、そこからペプチドなどの未消化物が血液中へ吸収されます。これらのペプチドは脳を興奮させ精神症状、幻聴幻覚などの原因になると考えられます。また有害な菌のなかには、ドーパミンやノルアドレナリンに似た物質を作り出すものがあります。

マリヤ・クリニックでは腸内に酵母菌や有害な菌が過剰に存在していないか、未消化物（ペプチド）が吸収されていないかを調べる検査をご案内しています。（約3万～5万円 全て自費）

検査後の治療について

検査により腸内細菌の影響を受けていると考えられる場合、整腸剤や抗菌作用のあるサプリメント、乳酸菌を含むサプリメントによる腸内除菌を行います。

乳酸菌などは腸内に定着し難い為、毎日、定期的に摂取する必要があります。腸内除菌は約半年間を1周期として継続することで、徐々に悪影響を及ぼす菌が減ります。腸内細菌のバランスが取れてくると腸壁の損傷も回復し、次第に吸収される未消化物の量が減り症状も軽減していくと考えています。